

Discover Chiba

千葉が誇る

日本一



千葉県PRマスコット
キャラクター「パーパくん」
千葉県許諾第A3415号



第29回

民間航空

《今回の日本一》

(千葉市)

・民間航空発祥の地



奈良原式4号機「鳳」号
(復元機)



奈良原式4号機「鳳」号について

昭和4年（1929年）に、奈良原道平（1894-1978）が、自費で製作した、日本初の4人乗りの双発エンジン機。機体は木製で、翼は布張り。エンジンは、アメリカ製の「コリンズ」エンジン。機体は、現在、千葉県立歴史民俗資料館に所蔵されている。



奈良原道平（左）と
機体（右）

奈良原式4号機「鳳」号の諸元

項目	内容
機体	木製
エンジン	アメリカ製の「コリンズ」エンジン
翼	布張り
翼幅	7.0m
全長	10.0m
全高	4.0m
重量	1,000kg
最大速度	100km/h



▲1915年(大正4年)鳥飼式改造単号で練習中 左より4人、玉井清太郎・伊藤晋次郎・山縣豊太郎、玉井の助手

伊藤家 所蔵

遠浅の広大な砂浜があった稲毛海岸は

民間航空発祥の地!

日本で初めて飛行機が飛んだのは、ライト兄弟が動力飛行に成功した年から7年後の1910年(明治43年)。現在の東京代々木公園にあった陸軍の練兵場れんべいじょうでのことでした。当時の日本は「航空の発達が遅れては、日本の将来が危うい」と考え、陸軍が中心となり、国家的プロジェクトとして「臨時軍用気球研究会」を発足させ、積極的に飛行機の研究に取り組んできた結果、初飛行成功を果たしました。

「臨時軍用気球研究会」には、当時32歳の海軍技師、奈良原三次も参加していて、日本の初飛行に成功した際にも、弟子たちと共に立ち会っていました。初飛行に成功した翌年には、埼玉県さいたまの所沢に国内初となる陸軍の飛行場ができましたが、海軍を退き民間人となった奈良原三次は、民間人の立場でも自由に航空研究ができる新たな拠点を探していました。そんな奈良原三次が目をつけたのが、当時、訪れていたリゾート地・稲毛でした。遠浅の砂浜は潮が引くと荷馬車が通れるほどになり、滑走路に使え考えたのです。奈良原三次は、稲毛で常宿にしていた浅間神社近くの旅館かいかん「海気館」の主人に相談したところ、敷地ばかりか丸太組みの格納

庫も建ててくれました。1912年(明治45年)、今までは日本軍専用の飛行場しかなかった我が国に、民間初の専用飛行場を開設することができました。このようなことから、稲毛海岸は、日本初の民間飛行場発祥の地であると共に、わが国の民間航空の発展につながる多くの飛行機を創出し、操縦の先駆者たちを世に送り出しながら現代に続く飛行機全盛時代の基礎を築きました。



▲絵はがき「下総 稲毛海岸」

岡下富彦氏 所蔵

「人が空を飛べるわけがない」。そんな時代の挑戦者。

日本の民間航空のパイオニアたち。

国産飛行機で初の飛行に成功した奈良原三次



▲奈良原三次
(1877年～1944年)

東京帝国大学(現・東京大学)工学部造兵科を卒業後、海軍少技師として勤務する一方、飛行機の研究も始め、新編成の臨時軍用気球研究会員にも任命され、さらに研究に拍車がかかりました。1910年(明治43年)には、自ら設計した奈良原式1号機を自費で完成させましたが、エンジンの馬力が足りず飛行を断念。しかし、翌年の5月5日には開設したばかりの陸軍所沢飛行場で第2号機を自らの操縦により、高度4m、距離60mの飛行に成功しました。この時、奈良原三次は、航空への情熱は尽きることなく自由に研究することを求め、海軍を退いた後も飛行機を自費で制作していたことから、この飛行が国産の民間機での初飛行となったのです。



▲奈良原式4号機「鳳(おおとり)」号 写真提供: (一財)日本航空協会
後ろに見えるのは、飛行機を見ようと集まった観客

民間操縦士第1号として賞賛された白戸栄之助



▲白戸栄之助
(1886年～1938年)



▲千葉海岸(登戸)白戸飛行場

1906年(明治39年)に陸軍の気球隊に入り、1910年(明治43年)に軍曹で退役した白戸栄之助は、奈良原三次のもとで操縦士として教育を受けることになりました。奈良原式1号と2号で同乗教官もなく操縦技術を身に付けるために、大変な努力を重ねたと伝えられています。1912年(明治45年)、川崎競馬場で行われた有料公開飛行会では奈良原式4号機「鳳(おおとり)」号を操縦し、白戸栄之助はわが国の民間操縦士第1号として賞賛されました。その後、奈良原三次の提案で、稲毛海岸にできた飛行場を本拠地として移動し、教官として伊藤晋次郎を教育しました。1916年(大正5年)末になると稲毛を離れ、千葉町(現・千葉市)寒川新宿に白戸飛行機練習場を開設し、飛行士の養成に力を注ぎました。

民間航空発祥の地で、明日を担う子どもたちが科学 って楽しいな、面白いなと感じてくれたら嬉しい。



稲毛子ども航空科学クラブ
稲毛子どもエジソンクラブ
主任講師 (工学博士) 福武 剛さん

製鉄会社の研究者として勤務していましたが、定年退職後は子どもたちに科学の楽しさを知ってもらいたいと考え、稲毛民間航空記念館の講習室を会場に小学校4～6年生向けの科学クラブの講師をしています。「実験」と「ものづくり」の体験を通じ、民間航空発祥の地の地元らしく「飛ぶ」ことに関連した科学を学ぶのが4・5年生を対象にした航空科学クラブです。5・6年生を対象にしたエジソンクラブでは範囲を電気まで広げ内容も難しくなっています。工作や実験を通して、「自ら考え工夫する楽しさを体験して欲しい」「科学の面白さを知って欲しい」と願いながら工作と実験内容を考えています。工作物の原理を学ぶので、子どもた

ちが中学生や高校生になってから学ぶ内容も含まれています。今は理解できなくても、大きくなってクラブでやった実験を思い出し「ああ、そうだったんだ」とさらに理解を深めてくれたらうれしいです。家庭では子どもたちの疑問に対し、ご両親も一緒に考えてあげる姿勢が大事ですね。親が答えを出さなくていい、子どもたちが自分で答えを出すその道筋が大切だと思います。



▲教室で学んだ後、お家でこの体験のことを家族に話してくれたら嬉しいと福武さんは言う。

日本初の民間飛行場跡地は今…

記念碑が建つ憩いの公園に!

その昔、たくさんの飛行家たちが活躍していた稲毛民間飛行場があった場所は、埋立てにより稲岸公園として整備されています。今は海岸は遠くになってしまいましたが、国道14号をはさんだ浅間神社と周辺の松林のたたずまいから当時の海岸が偲ばれます。公園は、中高層の建物が建つ住宅地にあり、地域の人々の憩いの場として親しまれています。公園内には飛行機の翼をあしらった「民間航空発祥之地記念碑」が建っていますが、これは、かつて稲毛の飛行場で活躍した飛行家・伊藤音次郎が建設委員の代表となり、1971年(昭和46年)に建立したものです。また、園内には日本初飛行50周年を記念した年に、ライト兄弟が初飛行に成功したキティーホークの丘より、ノースカロライナ州知事を通じて贈られた松の樹が今も美しい枝振りを見せています。



▲民間航空発祥之地記念碑(千葉市美浜区稲岸公園)
住所/千葉市美浜区稲毛海岸4丁目15



▲手前は、旧・川崎製鉄から寄贈されたSL NUS7。奥には記念碑の両脇に植えられた松の樹が見えます。

民間機初の東京訪問飛行を成功させた伊藤音次郎、数々の挑戦



▲伊藤音次郎
(1891年～1971年)



▲伊藤式恵美(えみ)1型の飛行展示会(最初の訪問地 栃木町) 伊藤家 所蔵

大阪生まれの伊藤音次郎は、道頓堀でライト兄弟の映画を観て飛行家に憧れ、1911年(明治44年)に奈良原三次に弟子入り。奈良原が稲毛の飛行場に移ると、白戸栄之助教官の練習生となりました。1915年(大正4年)には独立し、伊藤飛行機研究所を創立。白戸栄之助のために飛行機を作るなどしていましたが、自ら作った「恵美(えみ)号」で1916年(大正5年)に民間機として初めて帝都(現・東京都)訪問飛行に成功し、一躍、飛行家として有名になりました。1917年(大正6年)10月の高潮で稲毛の施設が壊滅した後は、津田沼町鷺沼(現・習志野市)に適した地を見つけて移転。民間航空界の先達として優れた飛行士や飛行機を世に送り出しました。1930年(昭和5年)には日本軽飛行機倶楽部を設立し、奈良原会長とともに日本の軽飛行機の普及に貢献しました。



▲伊藤飛行機研究所 設立
1915年(大正4年)1月
伊藤家 所蔵

伊藤飛行機研究所の門下生

日本の女性飛行家第1号 兵頭 精(ただし)さんはドラマのモデルに!

数多くの優秀な卒業生を日本の航空界に送り出した伊藤飛行機研究所。その中には、訓練生で日本の女性飛行家第1号となった兵頭精もいました。彼女は、1922年(大正11年)、帝国飛行協会が下志津陸軍飛行場で3等飛行士だけの競技会を開催した際には、伊藤式恵美25型で速度競技に出場して10位に入賞。各地で開催される飛行会に参加するたびに人気者となった飛行士でしたが、そんな彼女の人気をねたむ者もあってか、マスコミがスキャンダルをかき立てたことから航空界から姿を消してしまいました。1976年(昭和51年)放送のNHK連続テレビ小説「雲のじゅうたん」のヒロイン真琴は、この兵頭精がモデルの1人と言われています。



▲日本初の女性パイロットの物語
「兵頭精(ただし)空を飛びます!」
中村英利子著より
アトラス出版 2000年発行

飛行機の歴史や大空への夢を育む! 稲毛民間航空記念館



稲毛飛行場を本拠地にして活躍した国産飛行機、奈良原式4号機「鳳」号。この飛行機が初飛行に成功してから75年目に当たる1987年(昭和62年)、当時を偲ばせる復元機が作られ、民間航空発祥の地である千葉市に寄贈されました。その貴重な復元機の保存と、稲毛海岸の航空の歴史をたくさんの人々に知ってもらおうと1989年(平成元年)に「稲毛民間航空記念館」が建設されました。

館内では、リゾート地稲毛の干潟に日本初の民間飛行場が開設されたことについて紹介した「稲毛海岸飛行機物語」と題したパネル展示や、1916年(大正5年)当時の飛行機映像、奈良原飛行団の飛行展示会で活躍した奈良原4号機「鳳」号の復元機、関係者ゆかりの品の他、みんなが知りたいQ&Aコーナーなどがあります。

また、紙飛行機工作教室や紙飛行機競技大会、航空関係者による講演会を開催。専門の講師を招いて、年間で開催する「稲毛子ども航空科学クラブ」(小学4年・5年生対象)、「稲毛子どもエンジンクラブ」(小学5年・6年生対象)、「親子科学クラブ」(小学1年～3年生対象)の人気子ども向け科学講座も開かれています。募集要項については、お問い合わせください。



▲記念館内部



▲紙飛行機工作教室(完成機)

- 開館時間／午前9時～午後5時
- 開館日／1月4日から12月28日まで
※毎月第4月曜日休館。ただし第4月曜日が国民の祝日に関する法律に規定する休日にあたる場合は、その日後においてその日に最も近い休日でない日。
- 入館料／無料
- 問い合わせ／公益財団法人千葉市みどりの協会
稲毛民間航空記念館
TEL.043-277-9000

稲毛海岸周辺で見つけたお薦めグルメ&お土産

◎海岸通りの塩ブッセ 1個…… ¥160(税込)



雄大な自然と長く美しい海岸線を誇る千葉の海・九十九里のミネラル豊富な自然海塩をクリームに練り込み、ふんわりブッセ生地にサンドした、その名も塩ブッセ。口に含まれ、まろやかなクリームの風味に塩加減が絶妙にマッチして、もう1つ食べたくなる美味しさ。店の1番人気商品です。

- 問い合わせ／SWEETS MIZUNOYA
スイーツミズノヤ
TEL.043-205-4702 千葉市美浜区高洲1-16-55
営業時間／午前10時～午後7時30分
定休日／水曜日(祝祭日の場合、翌日休み)

◎パスタランチ …… ¥1,026(税込)



3種類のパスタから選べるランチメニュー。今回オーダーしたのは、海老とほうれん草のトマトクリームタリアテッレ。海老とトマトクリームの相性が抜群です。オープン14年目のイタリアンレストラン。ランチタイムには、たくさんの女性客でにぎわっていました。

※3種類のパスタメニューは2週間に1度変わります。

- 問い合わせ／イタリア市場トスカーナ
TEL.043-277-8151 千葉市美浜区高洲3-20-45細矢ビル1F
◎ランチタイム(火～金) 午前11時30分～午後3時(L.O. 午後2時30分)
(土日祝) 午前11時30分～午後3時30分(L.O. 午後3時)
◎ディナータイム 午後 5時30分～午後11時(L.O. 午後10時)
定休日／月曜日

〈ミニデザート〉
抹茶のアイス
クリーム



知ってる? 知らない?

●稲毛海岸周辺
インフォメーション!



見どころスポット!

稲毛ヨットハーバー



稲毛の海辺の活性化と海洋スポーツの振興を図ろうと、海洋教室・ヨット入門コース・ジュニアヨット教室・親子ヨット教室など多彩なイベントや教室を開いています。

- 問い合わせ／公益財団法人 千葉市スポーツ振興財団
TEL.043-279-1160

三陽メディアフラワーミュージアム



稲毛海浜公園内にある花の「美術館」。コンクリートの建物とガラス円柱ドームの大きな温室が目印。館内・屋外に約1,600種・48,000株の植物が植えられています。

- 問い合わせ／公益財団法人千葉市みどりの協会
三陽メディアフラワーミュージアム
(旧称:花の美術館)
TEL.043-277-8776

《千葉の日本一》今月の誌上クイズ!

稲毛海岸に稲毛飛行場が誕生したのは、1912年(明治45年)。では、その当時の日本の内閣総理大臣は誰?

以下の3人の中から正解を1つ選んでください。

- ① 大隈 重信(おおくま しげのぶ)
- ② 西園寺 公望(さいおんじ きんもち)
- ③ 桂 太郎(かつら たろう)

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「千葉が誇る日本一」の第29回をご覧ください。

取材協力・写真提供・撮影協力／千葉市美浜公園緑地事務所 公益財団法人千葉市みどりの協会 公益財団法人千葉市スポーツ振興財団
スイーツミズノヤ(MIZUNOYA) イタリア市場トスカーナ



京葉銀行

ホームページでバックナンバーもご覧いただけます。

京葉銀行 千葉の日本一 検索

2015.2(次回発行／2015年3月23日)

正解は→②西園寺公望(さいおんじ きんもち)
第2次西園寺内閣で、1911年8月30日～1912年12月21日
(480日間) ※1912年7月30日以降は、大正元年です。